

「効果の見える治水事業」  
南海トラフ地震後の目黒川の河道閉塞を想定した  
防災訓練（四万十市西土佐）



高知県土木部防災砂防課長 藤平 大

高知県は、四国山地をはじめとした森林面積が県土の約84%を占めるうえ、南北の標高差も大きく、南海地震等の大規模地震に際しては、沿岸部の津波被害だけでなく、深層崩壊等に伴う河道閉塞による「山津波」被害も多発することが予想されます。

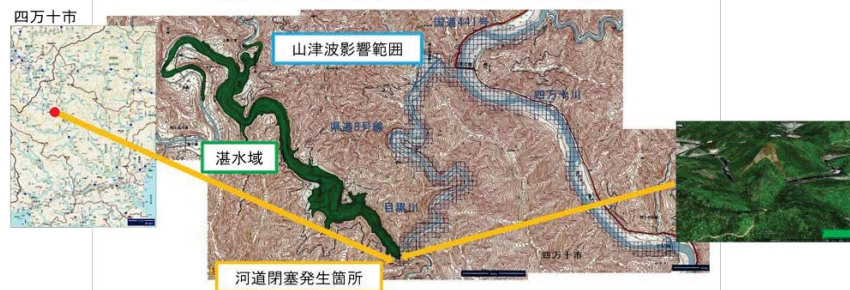
そこで本県では、平成 25 年 12 月に高知県四万十市西土佐の目黒川流域において、四万十市、高知県、国土交通省（四国地方整備局、中村河川国道事務所）及び地域住民が、目黒川での「山津波」を想定した訓練をおこない、土砂災害に対する行政機関の連携及び警戒避難体制の強化、避難勧告の発令等、防災意識の高揚を図りました。

今後は、より実践的な訓練とするために、南海トラフ地震対策推進地域本部等とも連携しながら、大規模な土砂災害が起こった際に集落が孤立した想定を与えるなど、内容を充実させていきたいと考えていますので、関係機関及び地域住民のみなさまの積極的なご協力をよろしくお願いいたします。

- 行政機関による情報伝達訓練
- 地域住民による避難訓練
- 土砂災害等に関する防災学習会



天然ダムによる土石流氾濫シミュレーション結果



～災害に強い四万十市を目指して～



高知県四万十市長 中平 正宏

四万十市は、平成 17 年 4 月 10 日に旧中村市と旧西土佐村が合併して発足し、来年で市制施行 10 周年の節目の年を迎えます。位置的には、県都高知市より西に車で約 2 時間の高知県西南部幡多地域に位置しており、南は太平洋に面し、北は愛媛県境と接する総面積 632.50 k m<sup>2</sup>のまちです。

本市には日本最後の清流として知られる四万十川をはじめとした、山・川・海の自然豊かな地域資源が豊富にあり、毎年多くの観光客が訪れます。中でも春の「四万十川リバーサイドフルウォーク」や夏の「四万十川水泳マラソン」はこの自然を舞台とした代表的なイベントであり、秋には応募者数が全国でも 1、2 位の人気を誇り今年で 20 回目の記念大会を迎える「四万十川ウルトラマラソン」も開催されるなど、全国各地より多くの参加者でまちが活気付きます。

これらの舞台となる本市にも着々と高速道路の整備の音が近づいてきており、ますます全国からのお客様を迎えやすくなるのが期待できる一方、この高速道路にはもう一つ南海トラフ巨大地震などの大規模災害時に「命の道」としての役割も期待されています。

大規模災害時に、この「命の道」をより有効に活用するためにも、想定される沿岸部の津波対策や市街地の地震火災対策はもちろん、森林面積が約 85%を占める本市では中山間地の土砂災害対策においてもハード対策を始め、住民周知や学習会、また継続的な避難訓練などのソフト対策の充実を図るなど、多くの課題に一つずつ取り組み、市民の命を守るため着実に災害に強い四万十市を目指していかなければならないと考えています。

